

## Q 再生可能エネルギーの地産地消について

石塚 節子 議員  
いしづか せつこ



## A 国のエネルギー計画と歩調を合わせていく

世界はCO<sub>2</sub>を排出しない再生可能エネルギー中心社会の構築に向かっている。日本各地で自治体や市民による再生可能エネルギーの取組が進められている。

**問** 災害時、避難所に再生可能エネルギーの発電装置はあるか。

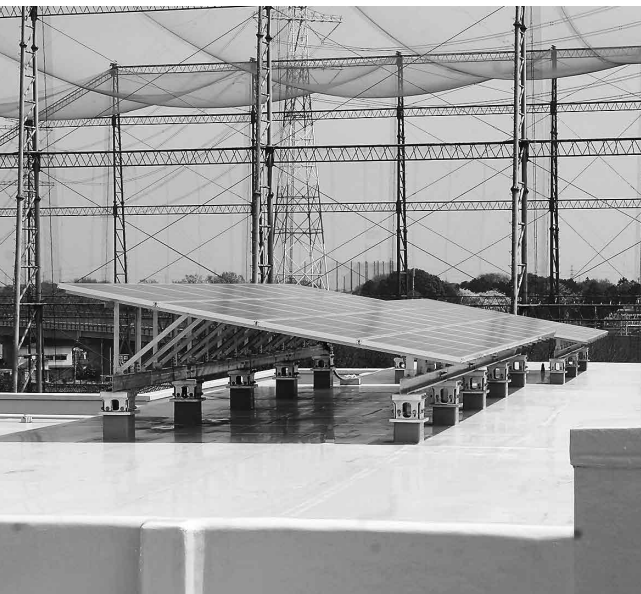
**答** 藤中学校と西市民センターに太陽光発電及び蓄電池がある。停電時、電気自動車の活用は。

**答** 3台の公用車を保有している。

また、現在、電気自動車を使用する8人の市民と災害時に電気を供給していただく協定を結んでいる。

**問** 公共施設における太陽光発電等の設置状況と今後の設置予定は。

**答** 太陽光発電設備は、若葉駅西口の電光掲示板や藤中学校、西市民センターなどの7施設に設置している。新たな設置予定はない。



校舎屋上の太陽光発電設備

**問** 再生可能エネルギーの地産地消についての市の考えは。

**答** 再生可能エネルギーの地産地消の推進は、経済の地域内循環による地域活性化や市民等がエネルギーのあり方を考えるきっかけになる。しかし、個人や事業者の意識の醸成・共有のほか、設備投資が必要になる。更に、固定価格買取制度の動向も見定めて検討する必要がある。国のエネルギー計画と歩調を合わせつつ、自然エネルギーの活用状況も注視したい。



## Q 第6次鶴ヶ島市総合計画について

はせがわ きよし 議員  
長谷川 清

## A 市の課題解決に必要な取組を重点戦略として位置付ける

**問** まず、市の財政状況についての認識を確認したい。

**答** 市の財政は、厳しい状況が続いているという認識である。

**問** 齊藤市政となつて、2年が経とうとしているのに、未だに市政経営の方針が示されていない。厳しい財政状況下での市長の仕事振りとしましては、異常ではないのか。

**答** 実績主義で市政を進めている。安定した市政運営が基本であり、全ての分野に全力を投じていくこと、行政のサイクルを円滑に、より大きく、早く進めていくということが私の考えである。市政経営に際しては、私が旗を振って市政を運営するという方法

ではなく、一つ一つの課題に対し、しっかりと結果を出していくように進めている。

**問** 総合計画の位置付けは。

**答** 市の最上位計画であり、目指すべき市の将来像に向け、市民、議会、職員が協力して課題を解決するための指針を示すものである。**問** であるからには、問題・課題を明確にし、具体的な解決策や目標値を示すことが必要であると考えるが。

**答** 分かりづらい、総花的であるという指摘を踏まえ、第6次総合計画は、重点的な戦略を定め、市民に分かりやすい計画としていく。



市役所庁舎